

風景 工芸王国 ■ 54

美川仏壇 ㊦

木地、漆塗り、箔押し、蒔絵。仏壇は、さまざまな手わざがつぎ込まれる総合工芸品である。

美川仏壇には、これらに加えて「堆黒」と呼ばれる技がある。模様が彫られた原版の上に漆の生地を敷いて、図柄の型版を起こし、文様を浮き上がらせる。幕末生まれの名工、湊屋村次郎が編み出したとされる希少な技である。

ブランドに知恵

北島仏壇(白山市美川新町)の4代目塗師、北島昭浩さん(46)は語る。

「目には見えなくても、こつした先人の積み重ねの上で、私らが仕事をさせてもらっている。だからこそ、下手なことはできません」

(ここ10年ほど、美川仏壇はブランドを守るために知恵を絞ってきた。コストダウンの

職人の手は うそをつけない

先人の信用を守る

ために他の産地で製造しながら「美川仏壇」を名乗る業者と、厳しく向き合ってきたのである。

美川仏壇の認定書の発行。

地域団体商標(地域ブランド)

への登録。本物の美川仏壇かどうかを見極める鑑定委員会と、組合をつくる43人の産地を守るうとする意識はひととき強い。

過程を見てもいい、一つの仏壇の部品一つ一つが手づくりであることを示すのも、先人が培った「信用」を守るためなのである。

震災で無償修理

東日本大震災で、宮城や茨城に住む北島さんの顧客10人前後が被災したという。北島さんが聞く限り、津波の被害こそなかったというが、仏具が激しい揺れで倒れ、傷がついたという顧客もいる。

「無償で修理することも考えています。阪神大震災もそうでしたから」

未曾有の災害に見舞われた人々は、大きく傷ついている。その「心の復興」に、磨いてきた技が役立つことを北島さんは願っている。

工房に並ぶ美川仏壇。先人の知恵の上に成り立っている



「白山市美川新町」

(宮下岳丈)